

Era of Design, Spirit of the Arts

SO+ZO 1960s→

Fruitful Achievements-Design & Art Works
by The Alumni of Kuwasawa Design School
and Tokyo Zokei University

デザインの時代、アートの息吹

桑沢デザイン研究所+東京造形大学

SO+ZO 展

「未来をひらく造形の過去と現在 1960s→」



Heibonsha
平凡社



1



1

山本有子

1
安東 (andong) 赤坂
東京
2000年

中村雅子

1
舟の家
東京
2006年

8.6 GUI共同制作)、Adobe (InDesign1.0 2.0 main visual)、NHKスペシャル (CG制作)、SONY (HDVS映像制作)、NTT会社案内、ほかに日本経済新聞社、講談社など。主な装幀は、ドゥルーズ+ガタリ『千のプラトール』、デリダ『精神分析の抵抗』、ジジェク『厄介なる主体』、飯島洋一『建築と破壊』ほか多数。

ひと言:
誰もがそう考えるように、20世紀はこの千年のなかでも特別な世紀だった。21世紀に入り、なにを「よすが」とするのか、深くそして速やかに考えなければならぬ。それがデザインだけでなく、すべてにおいて最も重要なことである。そのことを告げるために9.11は起こったといえる。「百年の孤独」「観客席」、GS『戦争機械』は20世紀のそれぞれの分野における節目にかかわった。『D-ZONE エディトリアルデザイン1975-1999』はその世紀の終わりを告げようとした著作である。

長友啓典 [ながとも けいすけ] →036
1939年大阪生まれ。61年桑沢デザイン研究所卒業。同年、日本デザインセンター入社。69年黒田征太郎とK2設立。84年講談社出版文化賞「さしえ賞」を受賞。2006年第37回講談社出版文化賞「ブックデザイン賞」を受賞。08年3月野地秋嘉氏と共著で講談社より『成功する名刺デザイン』を出版。今年7月「時代を切り開くデザイン展」開催。エディトリアル、各種広告、企業CI、及びイベント会場構成のアートディレクションを手がけるほか、多数の小説に挿絵、雑誌にエッセイ連載などを手がけ、現在に至る。

ひと言:
お茶の水美術学院に通っていた時に感じた事は周りの人達のデッサン、淡彩画の上手さがハンパじゃなく、上手い人だらけだった。遅まきながらデザインを志す者にとって美術系大学への受験は諦めざるを得なかった。そんなことで入学の選別をされたらたまらないと先鋭的教育方針の桑沢デザイン研究所に決めた。渋谷の坂上、広大に広がる芝生のワシントンハイツの前に立ち、環境のすばらしさに大感激した。入学当時に思ったことである。

中西元男 [なかにし もとお] →042
桑沢デザイン研究所を経て早稲田大学卒。1968年株式会社PAOS設立。経営者に理解されるデザイン理論・手法の開発をテーマに研究と実践を重ね、NTT、ベネッセ、INAX、毎日新聞、伊藤忠ほか、約100社の戦略CI・ブランド&事業戦略デザインを手掛ける。98-2000年Gマーク民営化時の審査委員長として改革を推進。10年4月よりニュービジネススクール「STRAMD (戦略経営デザイン人材育成)」主宰。現在、PAOSグループ (東京・上海) 代表、桑沢デザイン研究所客

員教授 (STRAMD主宰講師)。
ひと言:
金や仕事より「人を残すことこそ上」という言葉あり。桑澤洋子先生はまさにその実践者。私は幼稚園から大学院まで長く学生生活を送りましたが、その間の最高の学びは桑沢のリベラルかつ先端的な人間関係と教育環境でした。「デザインはあらゆる分野の共通公分母」はW.グロピウスの言ですが、審美性や快適性、安全性の探求は分野を越えたデザインの役割であり、単なる作品主義を越えた価値創造こそ未来デザインの大きな使命です。

中野恵美子 [なかの えみこ] →121
東京生まれ。立教大学文学部、東京造形大学テキスタイルデザイン専攻卒業。クランプルック美術大学院修士課程修了。元東京造形大学教授。個展にセントラル絵画館、サンパウロ近代美術館、千疋屋ギャラリー等。公募展、グループ展、招待展、海外展多数。受賞歴に現代工芸賞、現代工芸会員賞、ミニチュア・テキスタイル展 (ポーランド) 優秀賞、国際ファイバーアート (米) 受賞3回、国際テキスタイル・トリエンナーレ・フレッジ (ハンガリー) など。

ひと言:
東京造形大学のテキスタイル・デザイン専攻で学んだが、伝統的な染織が盛んな時代において、「広幅の布を染める」「織技法で造形的な表現をする」という授業内容が新鮮であった。また色彩、写真、建築等の共通科目を経て専門科目に進むという内容も視野を広げるのに大いに役に立った。「造形」とは?と友人達と論じたりしたことが懐かしい。

中村桂子 [なかむら けいこ] →163
1966年東京都生まれ。91年東京造形大学造形学部美術学科研究生終了。ギャラリー・グラフィカ (東京・銀座)、シロタ画廊 (東京・銀座) など全国で個展多数。91年「第59回日本版画協会展」山口源新人賞 (日本版画協会)、2000年五島記念文化賞美術新人賞 (五島記念文化財団)、02年「Acts of Renewal: Japanese Art Re-Interpreted」Victoria & Albert Museum (ロンドン)、05年「VOCA展」(上野の森美術館)、09年「TUAD Mixing 色層/shikiso: 呼吸する色たち」(東北芸術工科大学7Fギャラリー・山形)。

ひと言:
いつもそこには教員と学生を超えて作り手同士なのだという気風があって、絶えずせっぱつまっているような私に誰も近道は教えてくれなかった。先に生まれた自分も現在進行形なのだから君も現場に生きよと無言で語る背中を見ながらいたように思う。その背中は貴重であった。今も私の勇気の一部になっていると思うからだ。そして私は一体どんな

背中を持っているのだろう、とふと思うことがある。

中村雅子 [なかむら まさこ] →145
1960年東京生まれ。「Casappo & Associates」「Plastic Studio & Associates」等のインテリアデザイン事務所に修業後、29歳で独立。その後3年間バルセロナへ移住、ヨーロッパの建築を巡りし建築を独学。06年住居兼事務所を自ら設計し独自の環境共生手法を確立。意匠・構造・設備・インテリアを融合した建築をテーマにデザイン活動を行なっている。株式会社タジュール代表取締役、インテリアデザインアーキテクト。

中山泰 [なかやま やすし] →064
1947年北海道札幌に生まれる。63年和光学園高等部在学中に通っていた予備校 (お茶の水美術学院) で真鍋立彦と出会う。69年桑沢デザイン研究所グラフィックデザイン研究科を卒業。70年真鍋に誘われて、株式会社WORK SHOP MUI!を青山に設立。それぞれが独立後、リッチーヤングスタジオを創業。90年株式会社中山泰カンパニーを渋谷に設立。現在に至る。チチ松村との共著『毒のある本』『ぞぞっ』、真鍋立彦、奥村毅正との共著『WORKSHOP MUI!』『KEWPIE』がある。

新倉孝雄 [にいくら たかお] →072
1939年東京都生まれ。63年桑沢デザイン研究所写真研究科卒。東京を中心に横浜、湘南、軽井沢、そしてNEW YORKから町田へと、危ういバランスを秘めた気になる町を、ドキュメントでもなければ表現でもない、ありのままに飾り気のないスナップ写真で撮り続けている。著書に『私の写真術・コンボラ写真ってなに?』。主な写真集に『SAFETY ZONE』『湘南と軽井沢』『NEW YORK』『ワンダフルストリート』『DIZZY NOON』など。

ひと言:
写真に興味をもつようになったのは、桑沢に入塾してからです。新学期が始まり「テクスチュア」を撮る実習授業があり、初めてファインダー越しにじっくり対象物を見据えたとき、自分はいかに周りの風景を見てこなかったかに気づかされました。通学路もただ機能的に歩いているだけで、「ありのままの風景」を見落としているのではと引かかるものがあつたのです。この出会いが写真に惹かれカメラを持つ動機になっています。

錦織章三 [にしごり しょうぞう] →114
1970年桑沢デザイン研究所パッケージング専攻科卒業。70年に(株)アルピオンに入社。カスタマーサービス本部デザイン室部長を経て、2007年に退社。同年よりスタジオエック代表。(社)日本パッケージデザイン協会会員、桑沢デザイン研究所非常勤講師。JPC

経済産業大臣賞、JPDA金賞、JPDA銀賞、CLIO賞、P.D.C.金賞、JPIワールドスター・ジャパンスター賞、その他多数受賞。

西山浩平 [にしやま こうへい] →182
1970年兵庫県生まれ。東京大学在学中に、桑沢デザイン研究所にて工業デザインを学ぶ。大学卒業後、外資系コンサルティング会社マッキンゼーアンドカンパニーを経て、エレファントデザイン設立。ユーザー参加型の商品化コミュニティサイト「空想生活」(http://www.cuusoo.com)を運用。ユーザーの工夫で、仲間が集まると、ロイヤリティとなって還元される新しい社会システムの構築を目指している。2002年よりグッドデザイン賞審査員。05年ニューヨークに本拠を置き、100年の歴史を持つThe Japan Societyより、「US-Japan Innovators」の一人に選ばれる。08年ダボス会議を主催する世界経済フォーラムのThe Global Agenda Councilのメンバーに選ばれる。10年「知的財産による競争力強化・国際標準化専門調査会」委員に選ばれる。

ひと言:
コンパクトIHは東京電力とのプロジェクトから生まれた。その過程は、これまでの家電の供給のされ方と少し変わっていて、まず消費者に注文してもらったあとで、メーカーに作っていただいた。さながら昔ながらのオーダーメイドをインターネット上で複数の人が一緒に注文できるようにしたのである。オーダーメイドをするとき、注文主は一人と相場が決まっているが、そこを「みんな」という複数のコミュニティが集まって注文することで、デザインのプロセスを少しだけ民主化することになったと思う。桑沢でかつて私たちが教えてもらったことが、ハンドスキルブチャーによる手による造形の大切さと、工業デザインという機械生産を通じた効率的な生産様式の両立だとしたら、私たちが「空想生活」で行なっていることは、実に「桑沢」的なものかもしれない。

西脇一郎 [にしわき いちろう] →144
桑沢デザイン研究所研究科卒業後、飯島直樹デザイン室に勤務。1991年に西脇一郎デザイン事務所を設立。97年にエヌ・プランニングを設立。JCDデザインアワード、ナショナルライティングアワード他、多数受賞。2010年、ハートをモチーフにした家具ブランド「HEARTS」を発表。代表作に「MIKI-MOTO Ginza2」「Felisi」「ANA花梨」「なだ万」「EARTH」「MINIPLA」他多数。

記島伸彦 [はいじま のぶひこ] →193
1970年東京都生まれ。89年東京都立芸術高等学校美術科卒業。96年東京造形大学美術学科1類卒業。97年東京造形大学美術学科1類研究生修了 (版表現研究室)。2002-